

平成 27 年度放射線安全取扱部会年次大会研修報告

○齋藤希¹⁾，上村実也²⁾

1) 生命資源研究・支援センター， 2) 企画運営室

1. はじめに

放射線安全管理に係る情報収集及び放射線安全管理業務を担当する他大学等の教職員との交流を目的として研修に出席した。

日時： 平成 27 年 11 月 26 日～27 日

場所： 金沢市文化ホール（石川県金沢市）

2. 研修内容・考察

(1) 放射線安全管理

放射性同位元素等の規制に係る最近の動向について，原子力規制委員会から講演があった。

線源の所在不明等の事故がなくなること，同委員会による立入検査で類似の指摘が続いていること等から，安全文化（放射線の利用を認識・継続・実践する）が欠如しているとの指摘があった。その原因として，管理側の法令の理解が不十分であることや，放射線取扱主任者に求められる資質の低下についてあげられた。

現在，放射線安全管理の実務を担当しており，今後，放射線取扱主任者の資格取得及び，放射線取扱主任者としての指導・監督業務の遂行が求められる。実務担当をしている現在も，継続して法令等の理解に努めることに加え，学内の放射線取扱施設を担当する放射線取扱主任者との情報共有の重要性を感じた。また同時に，法令を理解した上で，施設使用の変更に際して迷った時は，原子力規制委員会にヒアリングするなど，行政との情報共有の重要性も学んだ。

(2) 放射線取扱施設における安全管理技術の継承

放射線取扱施設における安全管理技術の継承分科会から，分科会設置の背景，目的及び活動内容について講演及びポスター発表があった。

近年，ベテランの実務担当者が定年退職を迎え，若手への世代交代が行われている。しかし，放射線安全管理業務の引き継ぎ時間が短いこと等から十分に引き継がれず，放射線安全管理において懸念がある。同分科会では今後，ベテラン実務担当者と若手実務担当者との間を結ぶ全国的な人的ネットワークを構築し，継承の機会を提供する取り組みを行う。

若手実務担当者として，業務に関する懸案事項のアンケートに協力した。今後も，放射線安全管理に関する研修会に主席し，他大学等の教職員との交流を深め，同分科会活動において，若手の一員として参画していく。

3. まとめ

2 日間の研修を通して，放射線安全文化の醸成や，放射線取扱主任者及び放射線安全管理担当者の資質向上の重要性を認識した。さらに，他大学等の教職員との交流ができたことは大きな収穫になった。部会を主催してくださった公益社団法人日本アイソトープ協会及び研修の機会を与えてくださった谷施設長他関係者に，この場をお借りして御礼申し上げます。